

阪神港における『清酒の輸出』と『ワインの輸入』

～ 輸出酒類トップは清酒、輸入酒類トップはワイン ～

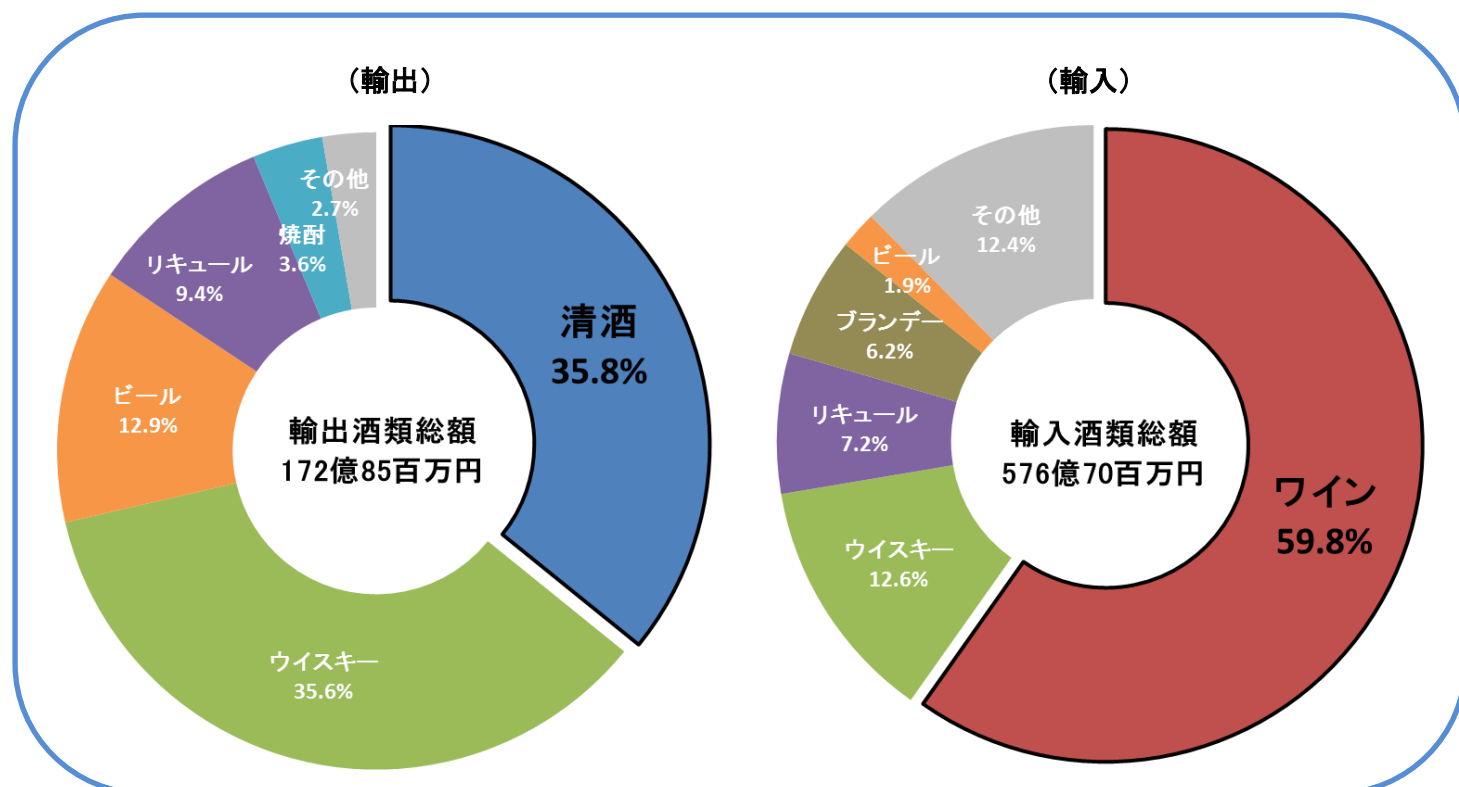
清酒（日本酒）は日本の伝統的な製法・原料に由来する酒類であり、クールジャパン推進の一環として輸出拡大のため、現在様々な取組みが行われています。

ワインは輸入数量が年々増加の傾向を示しており、外食産業から食卓まで幅広く日本人の食文化に根付いていると言えるのではないのでしょうか。

また、平成 27 年の輸入数量（スパークリングワインを除いた 2 リットル以下の容器入り）は、チリ産がフランス産を追い抜いたと大きく報じられ、話題となりました。

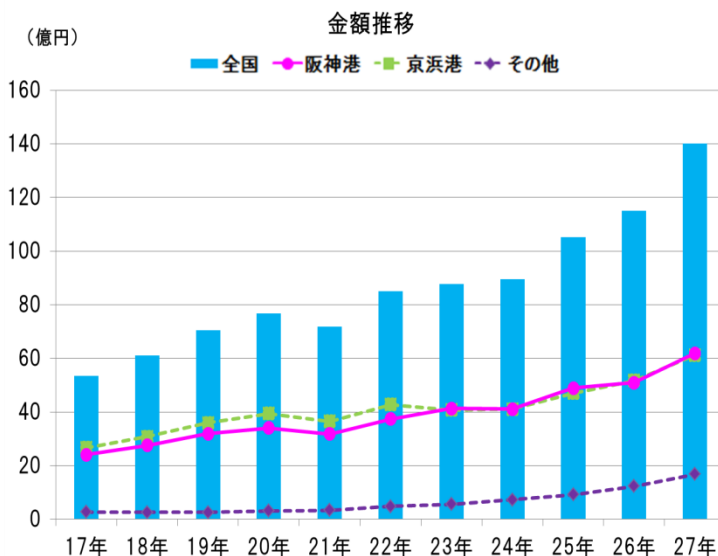
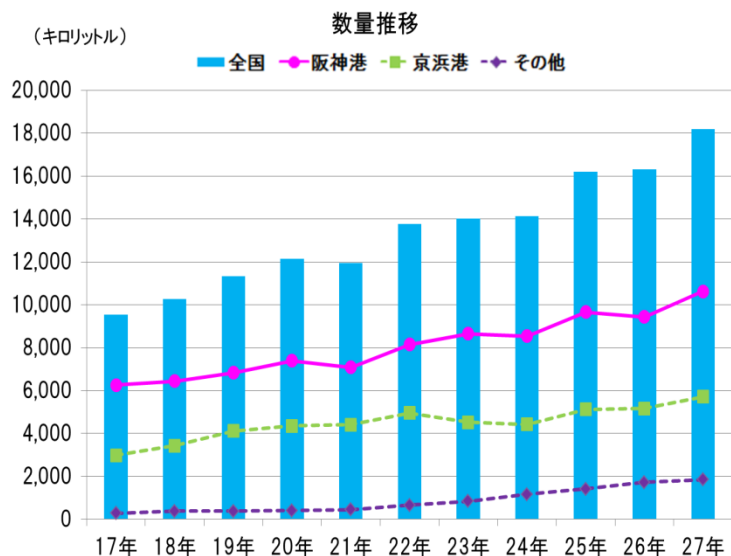
そこで、今回は阪神港の中でも輸出・輸入それぞれの 1 位を占める清酒とワインについて、取扱数量・金額が大きい「大阪港」と「神戸港」にスポットを当ててみました。

阪神港における輸出入酒類別シェア（平成 27 年）



- (注1) 本稿の「阪神港」は神戸、大阪、堺、尼崎の通関官署ベースで統計計上された数値を使用しています。
- (注2) 本稿の「京浜港」は、東京、横浜、川崎の通関官署ベースで統計計上された数値を使用しています。
- (注3) 本稿の「清酒」は、輸出統計品目番号 2206.00-200 を指します。
- (注4) 本稿の「ワイン」は、輸入概況品コード 1010103（ぶどう酒）に含まれる以下の輸入統計品目番号に分類されるものを指します。
2204.10-000、2204.21-010、2204.21-020、2204.29-010、2204.29-090、2204.30-200、2205.10-000、2205.90-200
- (注5) 本稿は近畿圏に所在する業界各社へのヒアリングを基に作成されています。

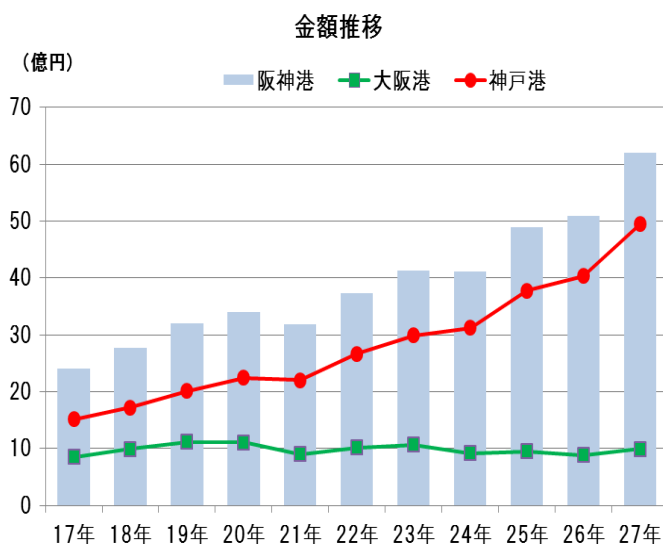
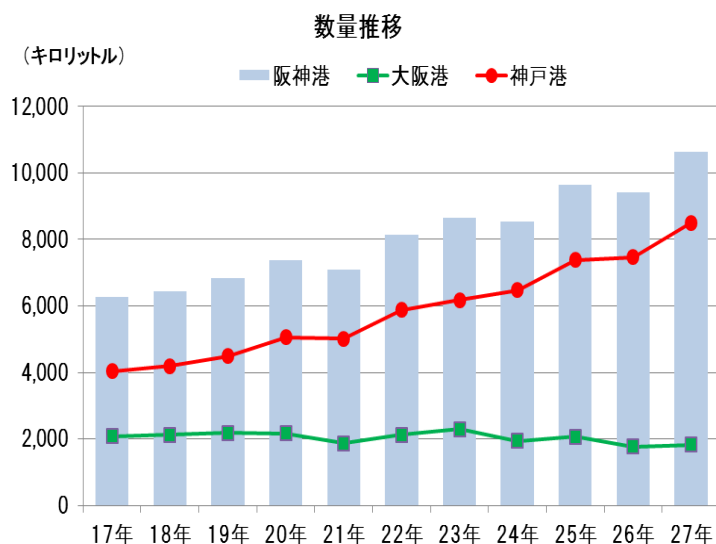
【清酒輸出実績の推移】



清酒（日本酒）の全国輸出実績は、リーマンショックなどの影響により減少した平成21年の翌年から6年連続して数量・金額ともに過去最高を更新しており、平成27年は、18,180キロリットル、140億円となっています。

阪神港の平成27年の輸出実績は、10,624キロリットル、62億円で、数量・金額とも過去最高となっています。全国シェアは、数量ベースで58.4%、金額ベースで44.2%となっています。

【阪神港における清酒の輸出】

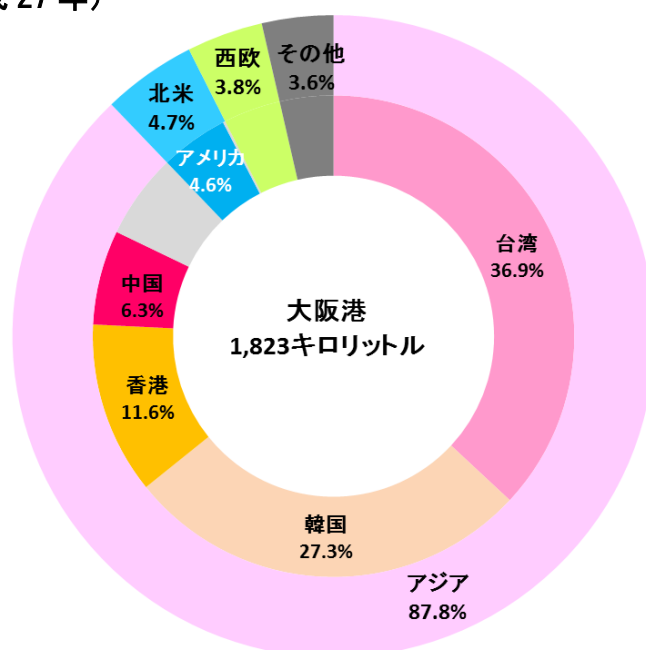
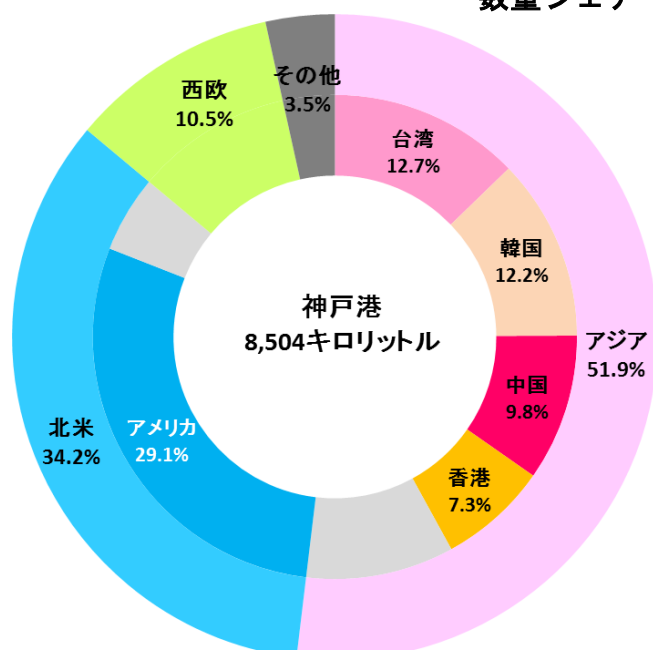


阪神港内における港別実績は、神戸港は、平成22年から6年連続で数量・金額ともに過去最高を更新しており、平成27年は、8,504キロリットル、49億円となっています。他方、大阪港は、1,823キロリットル、10億円となっています。

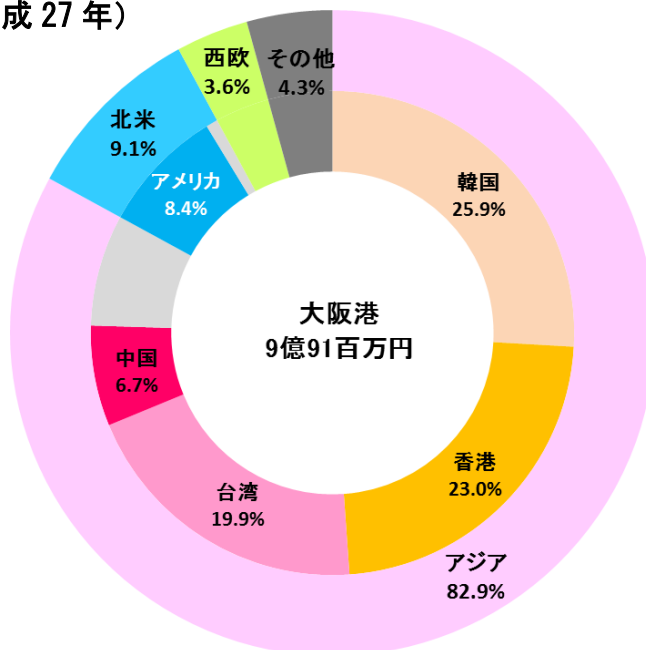
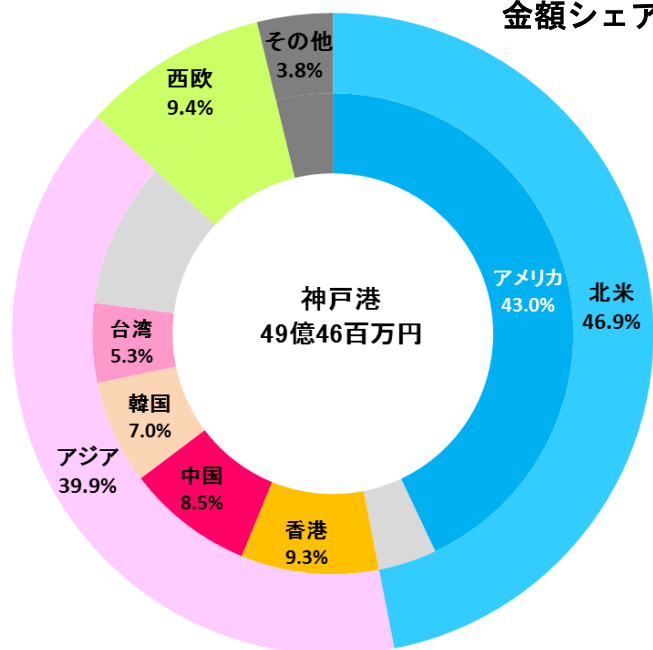
阪神港内の港別シェアは、数量ベースでは、神戸港80.0%、大阪港17.2%で、金額ベースでは、神戸港79.8%、大阪港16.0%となっており、神戸港が8割を占めています。

【阪神港における清酒の港別・地域(国)別シェア】

数量シェア（平成 27 年）



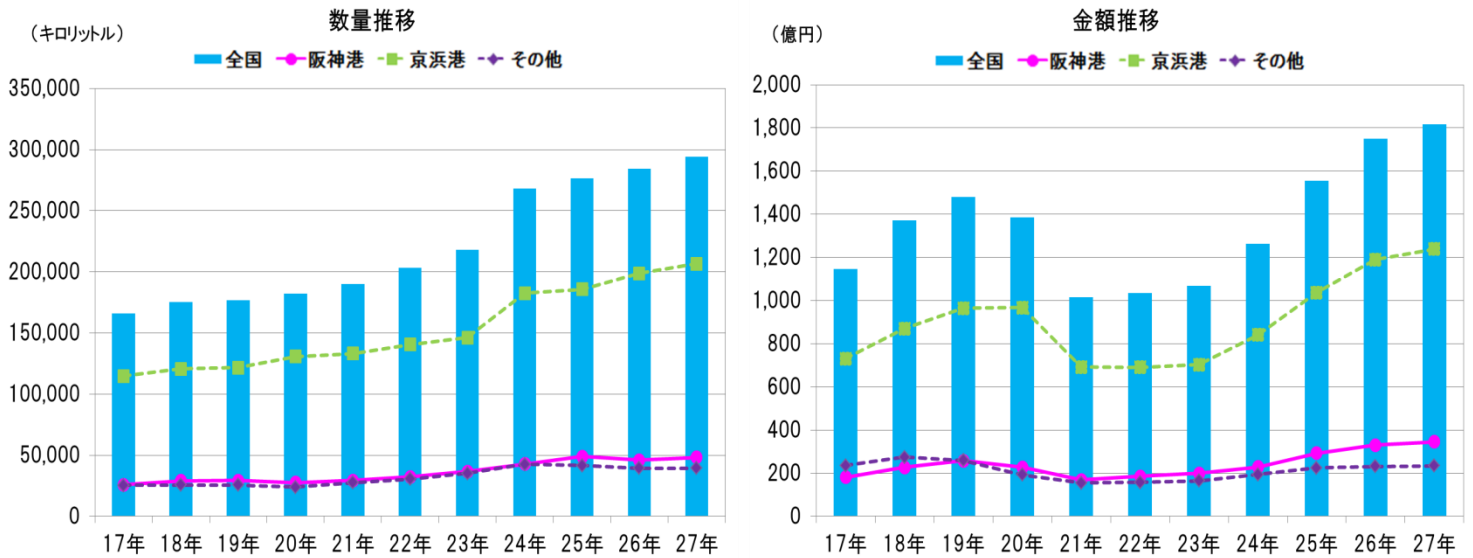
金額シェア（平成 27 年）



阪神港の数量ベースにおける主要港別の地域別シェアは、神戸港はアジア(51.9%)、北米(34.2%)、西欧(10.5%)で96.5%を占めるのに対して、大阪港はアジアで87.8%を占めています。国別シェアは、神戸港は上位3か国がアメリカ(29.1%)、台湾(12.7%)、韓国(12.2%)で占めるのに対して、大阪港は上位3か国が台湾(36.9%)、韓国(27.3%)、香港(11.6%)のアジア各国で占めています。

金額ベースにおける地域別シェアは、神戸港は北米(46.9%)と西欧(9.4%)で5割を超えるのに対して、大阪港はアジアで82.9%を占めています。国別シェアは、神戸港はアメリカで43.0%を占めるのに対して、大阪港は1位から3位まで、韓国(25.9%)、香港(23.0%)、台湾(19.9%)のアジア各国で占めています。

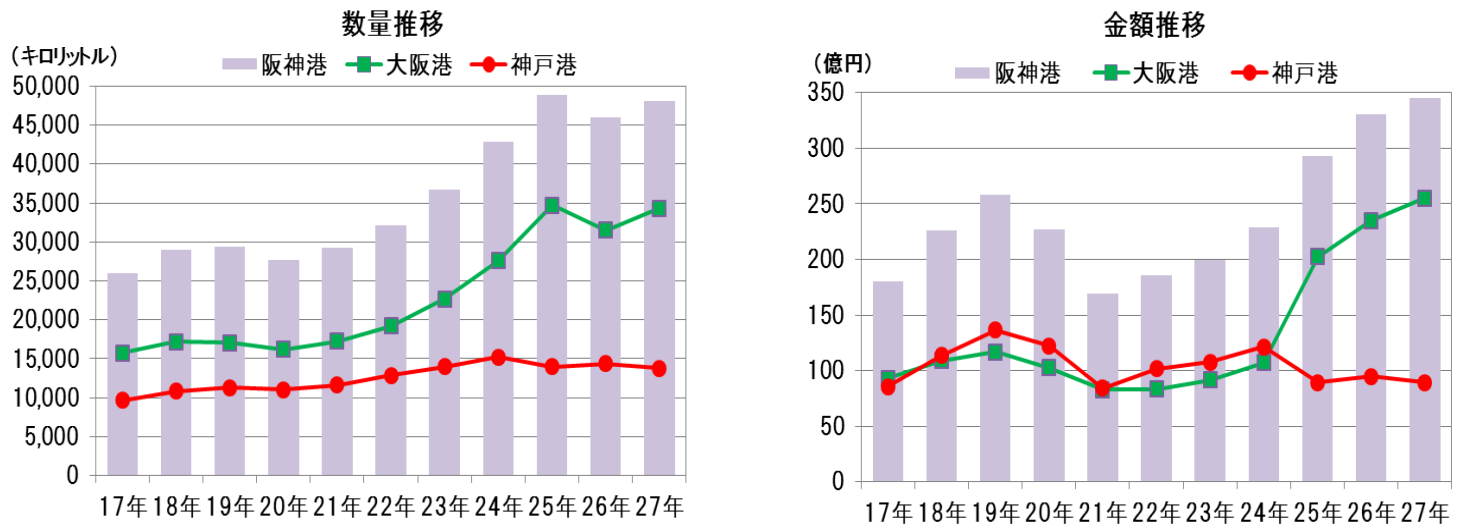
【ワイン輸入実績の推移】



ワインの全国輸入実績は、数量ベースでは平成18年以降10年連続、金額ベースでは平成22年以降6年連続で増加し、平成27年は、294,059キロリットル、1,818億円となり、金額ベースでは2年連続で過去最高を更新しました。

阪神港の平成27年の輸入実績は、48,147キロリットル、345億円となり、金額ベースでは過去最高となっています。全国シェアは、数量ベースで16.4%、金額ベースで19.0%となっています。

【阪神港におけるワインの輸入】

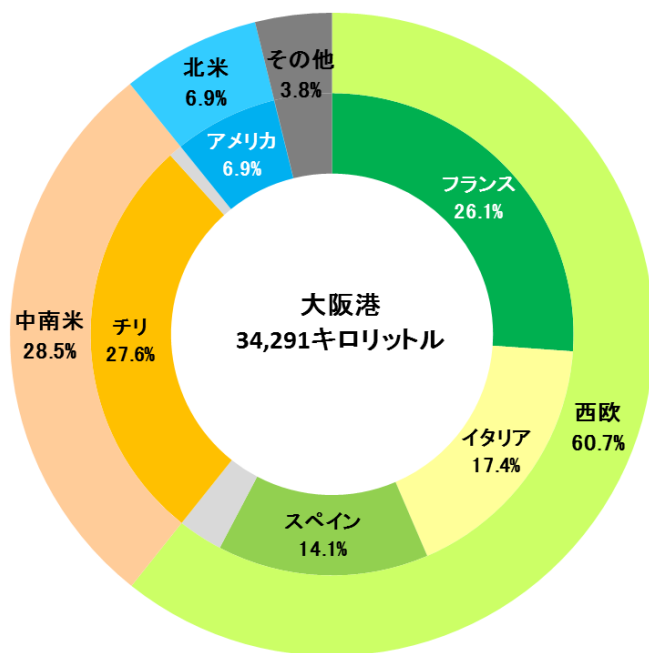
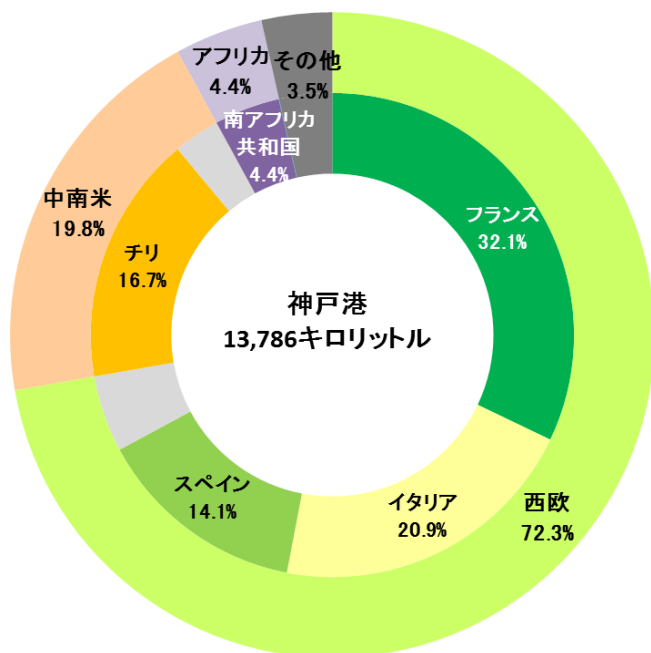


阪神港内における港別実績では、大阪港は金額ベースで平成25年の大幅な増加以降も堅調に推移し、平成27年は、34,291キロリットル、255億円となり、金額ベースではさらに過去最高を更新しています。他方、神戸港は、13,786キロリットル、89億円となっています。

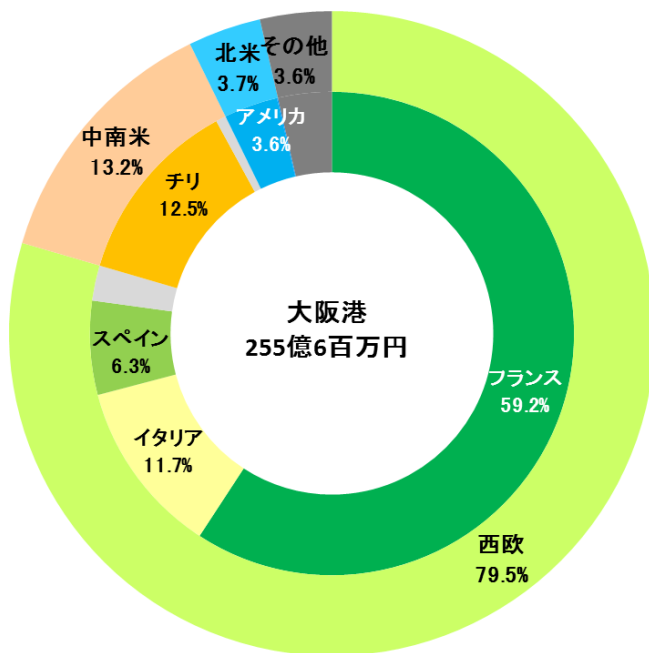
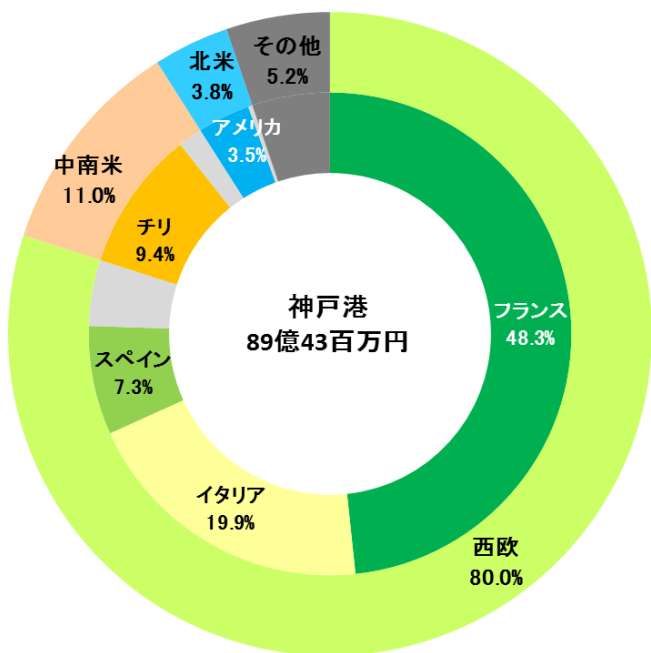
阪神港内の港別シェアは、数量ベースでは、大阪港71.2%、神戸港28.6%で、金額ベースでは、大阪港74.0%、神戸港25.9%となっており、大阪港が7割強を占めています。

【阪神港におけるワインの港別・地域(国)別シェア】

数量シェア（平成 27 年）



金額シェア（平成 27 年）



阪神港の数量ベースにおける主要港別の地域別シェアは、神戸港は西欧（72.3%）、中南米（19.8%）となり、大阪港も西欧（60.7%）、中南米（28.5%）で、両港ともに西欧と中南米で約9割を占めています。国別シェアは、神戸港はフランス（32.1%）、イタリア（20.9%）、チリ（16.7%）に対し、大阪港はチリ（27.6%）、フランス（26.1%）、イタリア（17.4%）となっています。

金額ベースにおける地域別シェアは、神戸港は西欧（80.0%）、中南米（11.0%）となっており、大阪港も西欧（79.5%）、中南米（13.2%）で、両港ともに西欧と中南米で9割を占めており、数量ベースと同じ傾向となっています。国別シェアは、神戸港はフランス（48.3%）、イタリア（19.9%）、チリ（9.4%）となっているのに対して、大阪港はフランス（59.2%）、チリ（12.5%）、イタリア（11.7%）となっています。